

ジェネリック医薬品使用促進に向けた加入者等意識調査

徳島支部 企画総務グループ スタッフ 高橋 貴代子

徳島支部調査研究プロジェクトチーム

概要

【目的】

ジェネリック医薬品使用割合において、約 20 ポイント差がある全国 2 位の鹿児島支部と最下位の徳島支部の加入者を対象に、ジェネリック医薬品使用にかかわるアンケートを実施し、加入者意識の比較等を客観的に分析した結果について各関係団体へ情報提供を行うことで、ジェネリック医薬品使用促進における連携強化を図ると共に、今後の使用促進事業に活用することを目的とした。

【方法】

2014 年度協会けんぽ加入者情報に基づき、徳島支部ならびに鹿児島支部の加入者を 20 歳以上年齢階級別（10 歳刻み）および男女別に割り当てし、層化抽出法（比例割当）によりサンプル数がそれぞれ 3,000 人となるよう抽出、郵送法によるアンケート調査を行った。徳島支部、鹿児島支部 2 群間の比較については、カイ 2 乗独立性の検定、クラメール連関係数による検証を実施した。

【結果】

アンケート調査結果の単純集計より、医療機関、薬局でのジェネリック医薬品に関する説明の有無については徳島支部で 55.9%と、鹿児島支部と比較して 12.9 ポイント低位であった。また、ジェネリック医薬品への変更経験の有無についても徳島支部が 9 ポイント低く 38.5%であった。ジェネリック医薬品への変更のきっかけについては、薬剤師からの説明を挙げた者が徳島支部 57.1%、鹿児島支部 63.3%、医師からの説明を挙げた者は徳島支部 20.2%、鹿児島支部 20.5%であった。ジェネリック医薬品の使用に関する意識として「使いたい」「試してみたい」「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」とする者は徳島支部 79.1%、鹿児島支部 84.0%と約 8 割を占めた。

【考察】

徳島支部においては、ジェネリック医薬品に関する説明を受ける機会が鹿児島支部と比較して少なく、そのことがジェネリック医薬品への変更経験が鹿児島支部より低位である一因と考えられる。一方でジェネリック医薬品への変更可能性がある回答については徳島支部においても約 8 割と高く、また変更のきっかけとして約 6 割が薬剤師からの説明を挙げていることから、今後ジェネリック医薬品使用割合向上を図る上で、薬剤師から加入者へのアプローチについての検証、対策が重要な課題と考える。

【目的】

本調査は、協会けんぽ都道府県支部におけるジェネリック医薬品使用割合が、沖縄支部に次いで高い鹿児島支部と、最下位の徳島支部それぞれの加入者に対し、ジェネリック医薬品使用にかかわるアンケートを実施し、加入者意識の比較等を踏まえ 20 ポイント近くの乖離について、どこに問題があるのか客観的分析を行い、ジェネリック医薬品の使用促進に有効と考えられる取組について、関係団体に情報提供し、今後の使用促進事業に活用することを目的とした。徳島支部においては、ジェネリック医薬品使用促進事業の推進に、徳島県薬剤師会等関係団体との連携が不可欠と考え、情報提供や意見具申を通じて、連携強化とともに保険者機能発揮に努めることとした。

【方法】

2014 年度協会けんぽ加入者情報に基づき、徳島支部ならびに鹿児島支部加入者（任意継続保険加入者含む被保険者、被扶養者）を 20 歳以上年齢階級別（10 歳刻み）および男女別に割り当てし、層化抽出法（比例割当）によりサンプル数がそれぞれの支部において 3,000 人となるよう抽出、郵送法によるアンケート調査を行った（表 1-1、表 1-2）。調査実施期間は 2016 年 8 月 1 日から 2016 年 8 月 31 日までとした。抽出したサンプルは、2015 年 6 月から 2016 年 5 月受付分の調剤レセプトの有無で区分けし、医療機関受診者とそうでない者の意識差についても確認を行った。徳島支部、鹿児島支部 2 群間の比較について、カイ 2 乗独立性の検定、クラメール連関係数による検証を実施した。

表 1-1 徳島支部のサンプル数

年齢階級	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	合計
構成割合	16.1%	20.5%	21.9%	19.4%	18.7%	3.3%	100.0%
サンプル数	482	616	658	582	562	100	3,000
男性（再掲）	236	304	332	254	268	39	1,433
女性（再掲）	246	312	326	328	294	61	1,567

表 1-2 鹿児島支部のサンプル数

年齢階級	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	合計
構成割合	17.4%	21.2%	19.8%	19.7%	19.2%	2.7%	100.0%
サンプル数	522	636	593	592	576	81	3,000
男性（再掲）	236	270	274	274	281	34	1,369
女性（再掲）	286	366	319	318	295	47	1,631

【結果】

有効回答数については、徳島支部 655 件（有効回答率 22.4%）、鹿児島支部 601 件（有効回答率 20.9%）で、内訳は以下の通りであった。（表 2-1、表 2-2、表 2-3）

表 2-1 回答件数

	徳島支部			鹿児島支部		
	レセプト有	レセプト無	計	レセプト有	レセプト無	計
回答件数	525	130	655	482	119	601
回答率	24.4%	17.0%	22.4%	22.5%	16.5%	20.9%
郵送件数	2,218	782	3,000	2,248	752	3,000
到達件数	2,155	765	2,920	2,146	723	2,869

※宛先不明戻り分について、徳島支部 80 件、鹿児島支部 131 件あり。

表 2-2 徳島支部の回答者数内訳

年齢階級	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上
郵送数割合	16.1%	20.5%	21.9%	19.4%	18.7%	3.3%
回答構成割合	8.9%	17.3%	18.8%	22.9%	27.5%	3.8%
回答数	58	113	123	150	180	25
男性（再掲）	21	41	40	49	76	10
女性（再掲）	37	72	83	101	104	15

表 2-3 鹿児島支部の回答者数内訳

年齢階級	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上
郵送数割合	17.4%	21.2%	19.8%	19.7%	19.2%	2.7%
回答構成割合	9.3%	16.5%	16.3%	26.5%	27.0%	2.8%
回答数	56	99	98	159	162	17
男性（再掲）	16	32	20	54	78	7
女性（再掲）	40	67	78	105	84	10

※徳島支部年齢性別不明 6 件、鹿児島支部年齢性別不明 10 件あり。

○単純集計からみる比較検証

問 1「ジェネリック医薬品（後発医薬品）をご存じですか。（○は 1 つだけ）」の質問に対し、「よく知っている」「だいたい知っている」を合わせると徳島支部 78.4%、鹿児島支部 84.1%と、両支部ともジェネリック医薬品に対する認知度は高いものの、5.7 ポイントの差が見られた。（図 1-1）

レセプトの有無で比較した場合、レセプトが有る者で「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した者は徳島支部で 79.6%、鹿児島支部では 85.3%、

レセプトが無い者で「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した者は、徳島支部で73.9%、鹿児島支部で79.0%と両支部ともにレセプトの有無にかかわらず、ジェネリック医薬品に対する認知度は高い結果であった。(図1-2)

図1-1

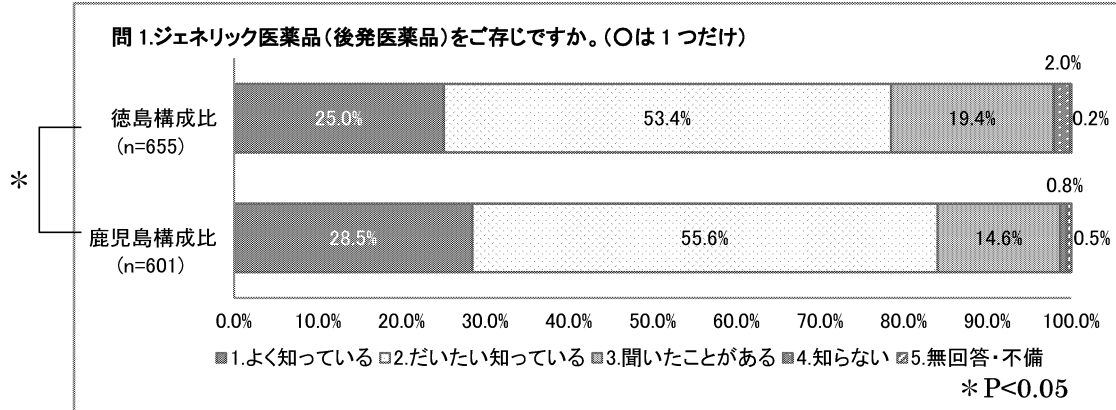
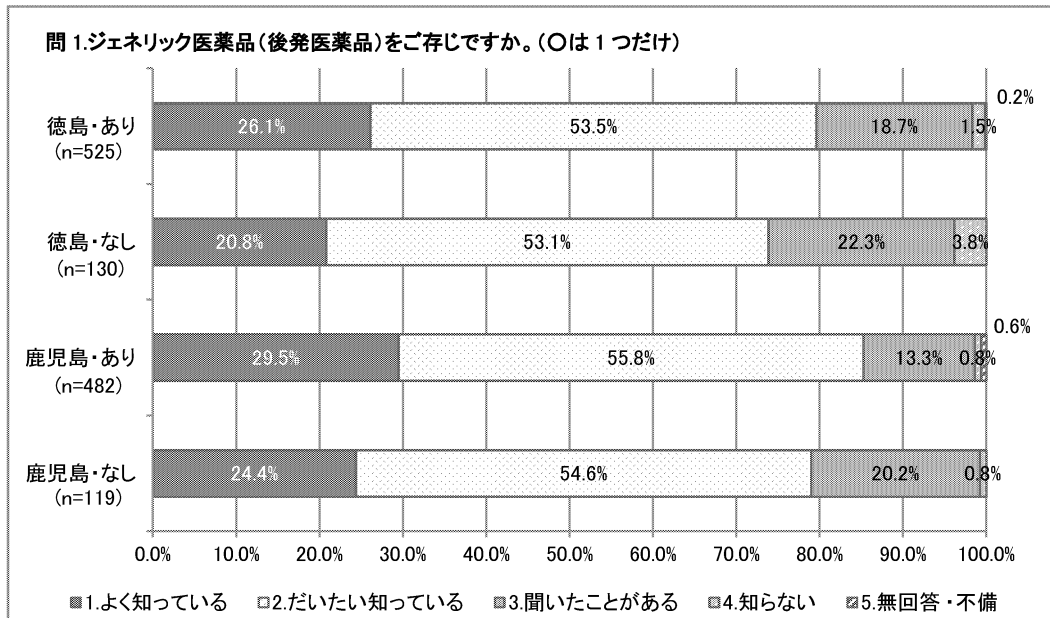
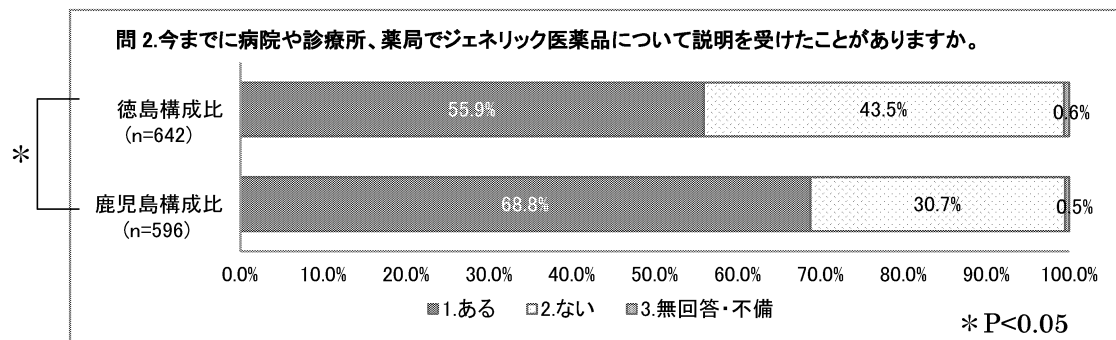


図1-2



問2「今までに病院や診療所、薬局でジェネリック医薬品について説明を受けたことがありますか。」の質問に対し、「ある」と回答した者は、徳島支部で55.9%、鹿児島支部で68.8%と12.9ポイントの大きな乖離がある。(図2)

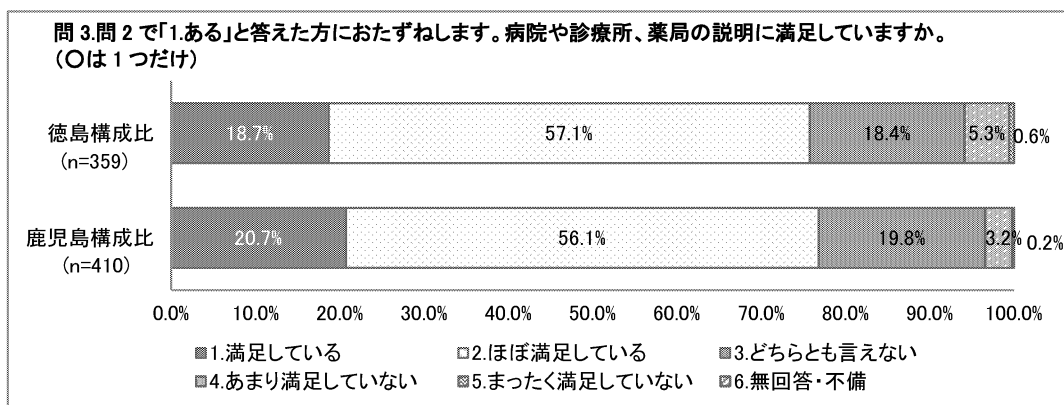
図2



問3「問2で「1.ある」と答えた方におたずねします。病院や診療所、薬局の説明に満足していますか。(〇は1つだけ)」の質問に対し、「満足している」「ほぼ満足している」との回答は徳島支部75.8%、鹿児島支部76.8%と1ポイント差しかなく、医師、薬剤師より説明を受けた場合は、両支部加入者ともに満足度は高い結果となっている。(図3)

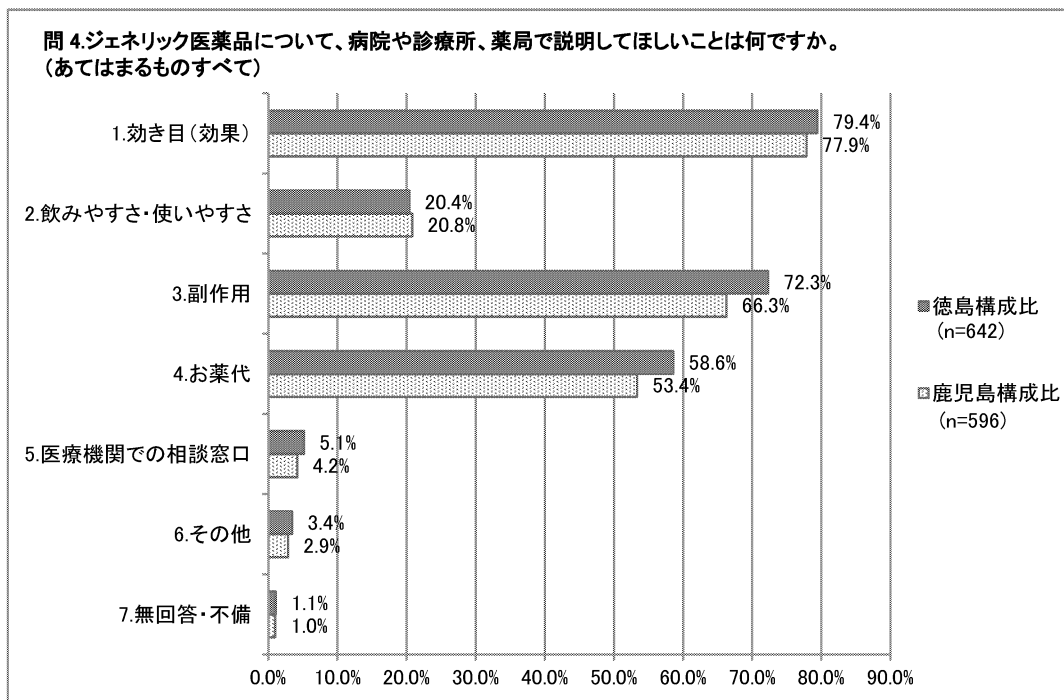
問1から問3の結果より、ジェネリック医薬品に対する加入者の意識差は医師、薬剤師からの説明機会に左右される面があると言える。

図3



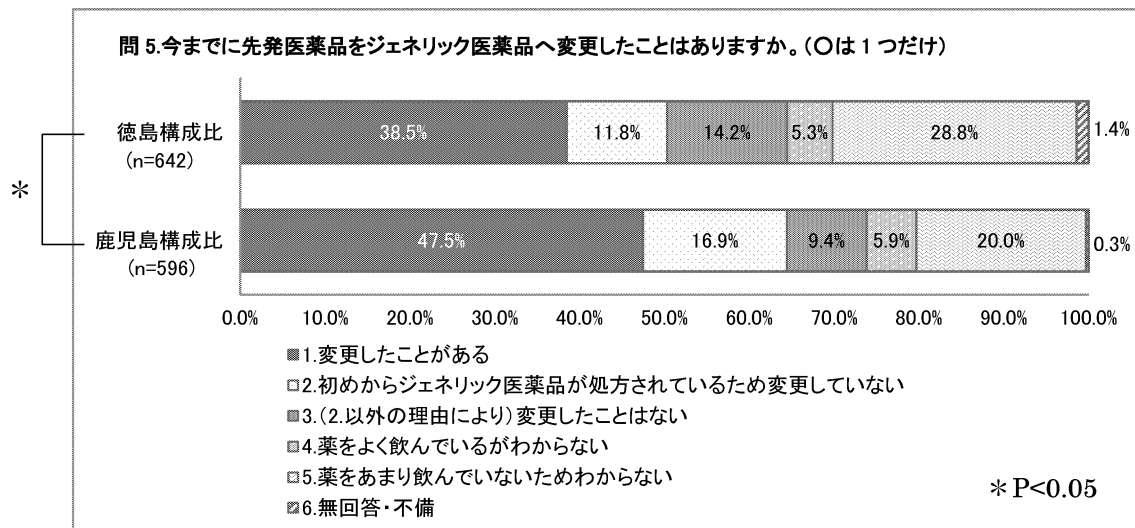
問4「ジェネリック医薬品について、病院や診療所、薬局で説明してほしいことは何ですか。(あてはまるものすべて)」の質問に対し、両支部加入者とも「効き目(効果)」「副作用」「お薬代」についての説明を半数以上が希望しており、特に「効き目(効果)」については80%近い加入者が説明を求めている結果となった。また「副作用」については、徳島支部が6ポイント高く(徳島支部72.3%、鹿児島支部66.3%)、「副作用」に対する意識が高い結果となっている。(図4)

図4



問 5「今までに先発医薬品をジェネリック医薬品へ変更したことはありますか。(〇は 1 つだけ)」の質問に対し、「変更したことがある」「初めからジェネリック医薬品が処方されているため変更していない」を合わせると、徳島支部 50.3%、鹿児島支部は 64.4%と 14.1 ポイント差となり、問 2 の「説明を受けた経験あり」の差異 12.9 ポイントと近似している。また、両支部のジェネリック医薬品使用割合の差が表れたものとなっている。(図 5)

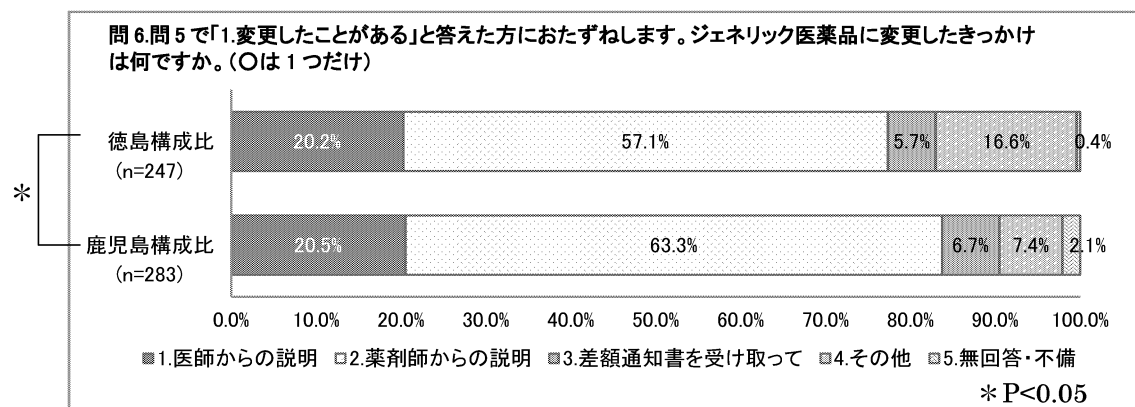
図 5



問 6「問 5 で「1. 変更したことがある」と答えた方におたずねします。ジェネリック医薬品に変更したきっかけは何ですか。(〇は 1 つだけ)」の質問において、「医師からの説明」は 0.3 ポイント差 (徳島支部 20.2%、鹿児島支部 20.5%)、「薬剤師からの説明」は 6.2 ポイント差 (徳島支部 57.1%、鹿児島支部 63.3%)と、徳島支部については、薬剤師からの説明により変更したとする者が鹿児島支部と比べて少ない結果となっている。

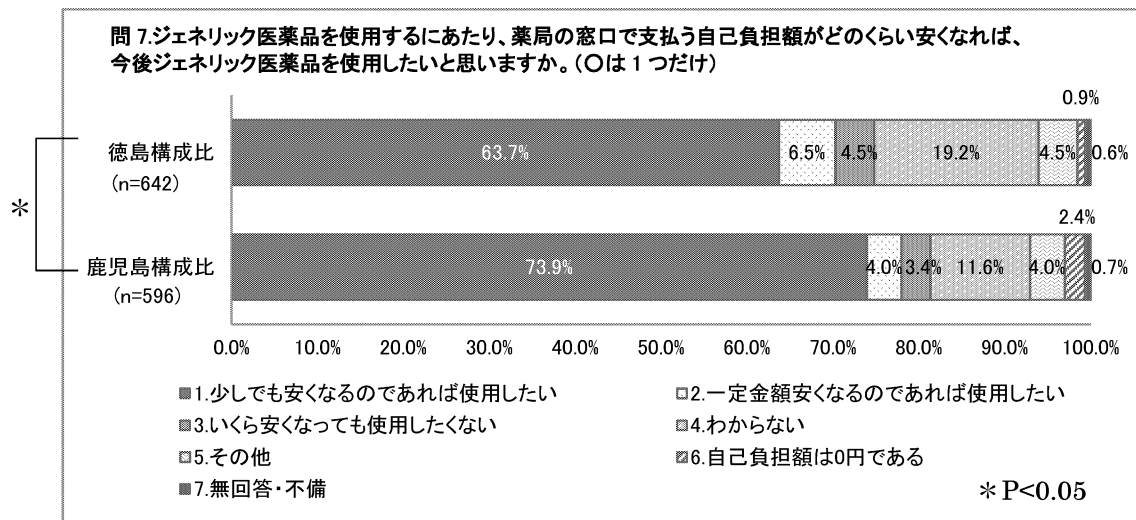
また、その他 (徳島支部 16.6%、鹿児島支部 7.4%) の回答では TVCM などの情報を挙げる者が多く、徳島支部においては医師や薬剤師以外からの情報を活用する傾向がうかがえる。しかしながら、約 6 割が薬剤師からの説明を変更契機としていることから、薬剤師から加入者へのアプローチや説明方法などが重要であることが示唆された。(図 6)

図 6



問7「ジェネリック医薬品を使用するにあたり、薬局の窓口で支払う自己負担額がどのくらい安くなれば、今後ジェネリック医薬品を使用したいと思いますか。(○は1つだけ)」の質問に対し、「少しでも安くなるのであれば使用したい」と答えた者は、徳島支部 63.7%、鹿児島支部 73.9%と徳島支部が 10.2 ポイント低い結果であった。「いくら安くなっても使用したくない」と答えた者は徳島支部 4.5%、鹿児島支部 3.4%と低率であった。問4の質問では「お薬代」の説明希望について 5.2 ポイント鹿児島支部が低い結果となっていることから、軽減額にかかわらずお薬代が少しでも安くなるのであれば使用したいという、鹿児島支部の加入者意識の表れと推察される。(図7)

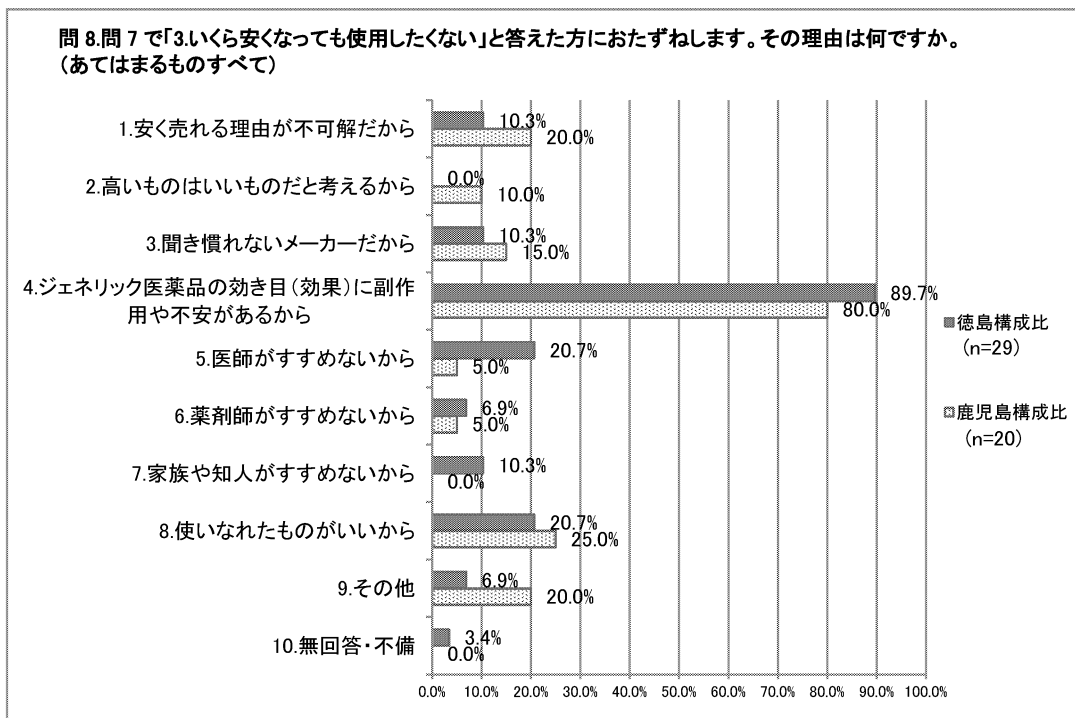
図7



問8「問7で「3.いくら安くなっても使用したくない」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。(あてはまるものすべて)」の質問に対し、両支部ともに「ジェネリック医薬品の効き目(効果)に副作用や不安があるから」が最も多く、徳島支部 89.7%、鹿児島支部 80.0%となっている。(図8)

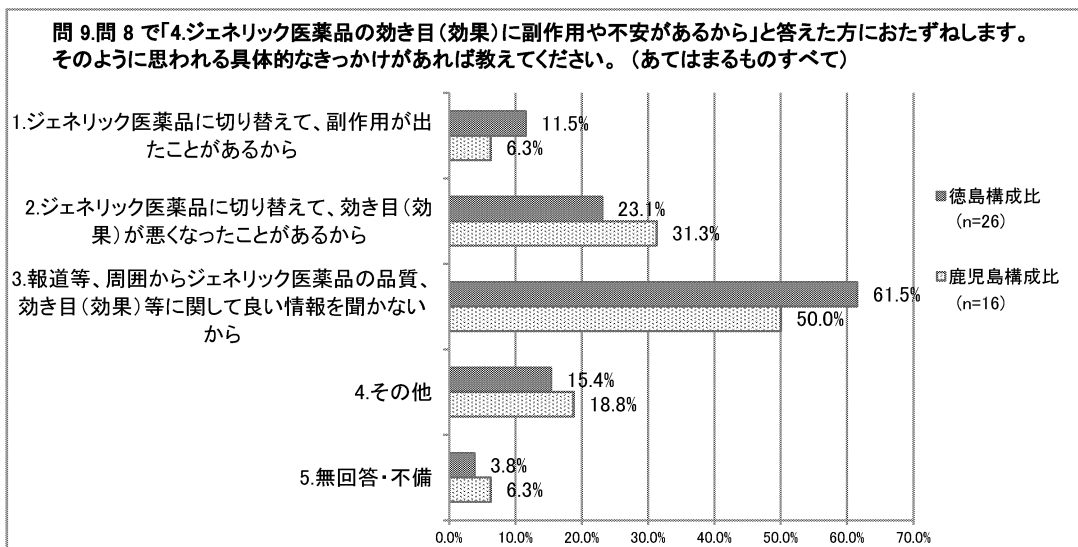
徳島支部においては「医師がすすめないから」「薬剤師がすすめないから」との理由を挙げる者が 27.6%と鹿児島支部より 17.6 ポイント高く、医師や薬剤師からの説明がジェネリック医薬品に対する不信感解消のポイントであると考えられる。

図 8



問9「問8で「4.ジェネリック医薬品の効き目(効果)に副作用や不安があるから」と答えた方におたずねします。そのように思われる具体的なきっかけがあれば教えてください。(あてはまるものすべて)」の質問に対し、「報道等、周囲からジェネリック医薬品の品質、効き目(効果)等に関して良い情報を聞かないから」が両支部ともに最も高く(徳島支部61.5%、鹿児島支部50.0%)、「ジェネリック医薬品に切り替えて、効き目(効果)が悪くなったことがあるから」「ジェネリック医薬品に切り替えて、副作用が出たことがあるから」を上回る結果となっている(図9)。ジェネリック医薬品を使用する前段階での慎重な姿勢がうかがえるため、同等性の担保、効果検証、有益性を説明することで、ジェネリック医薬品への不信感の払拭を図っていく必要がある。

図9



問 10「ジェネリック医薬品の使用に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。(〇は1つだけ)」の質問に対し、「できればジェネリック医薬品を使いたい」「とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい」「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」とする、ジェネリック医薬品使用に肯定的な回答は、徳島支部 79.1%、鹿児島支部 84.0%と鹿児島支部が 4.9 ポイント高い結果となった。「できればジェネリック医薬品を使いたくない」との回答は徳島支部 8.7%、鹿児島支部 3.7%と徳島支部が 5 ポイント高い結果であった。両支部ともおおむね 8 割の加入者がジェネリック医薬品使用に肯定的な意識を持っていることが示された。(図 10-1)

またレセプトの有無で比較した場合、「できれば使いたい」「とりあえず試してみたい」「こだわらない」と回答した者は、徳島支部においては「レセプトあり」で 79.2%、「レセプトなし」で 78.4%、鹿児島支部においては「レセプトあり」で 83.8%、「レセプトなし」で 84.9%と、レセプトの有無で大きな差は見られなかった。(図 10-2)

図 10-1

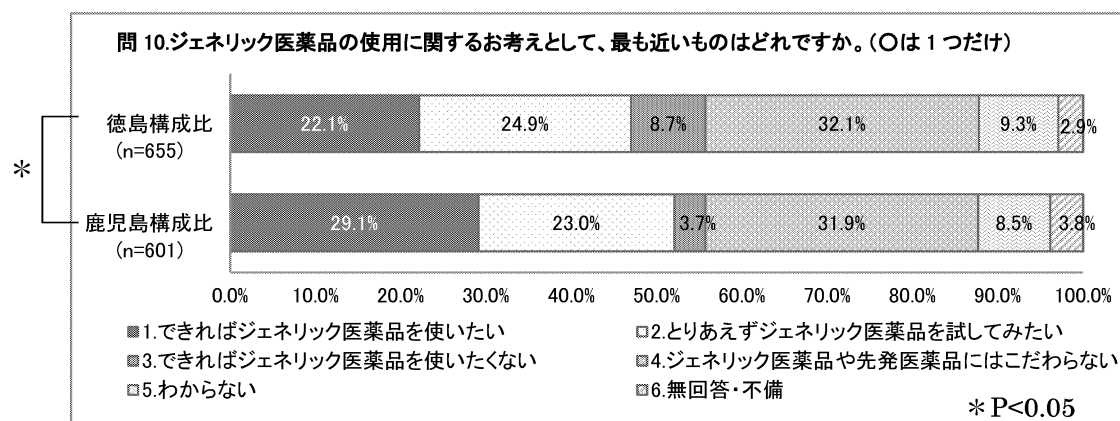
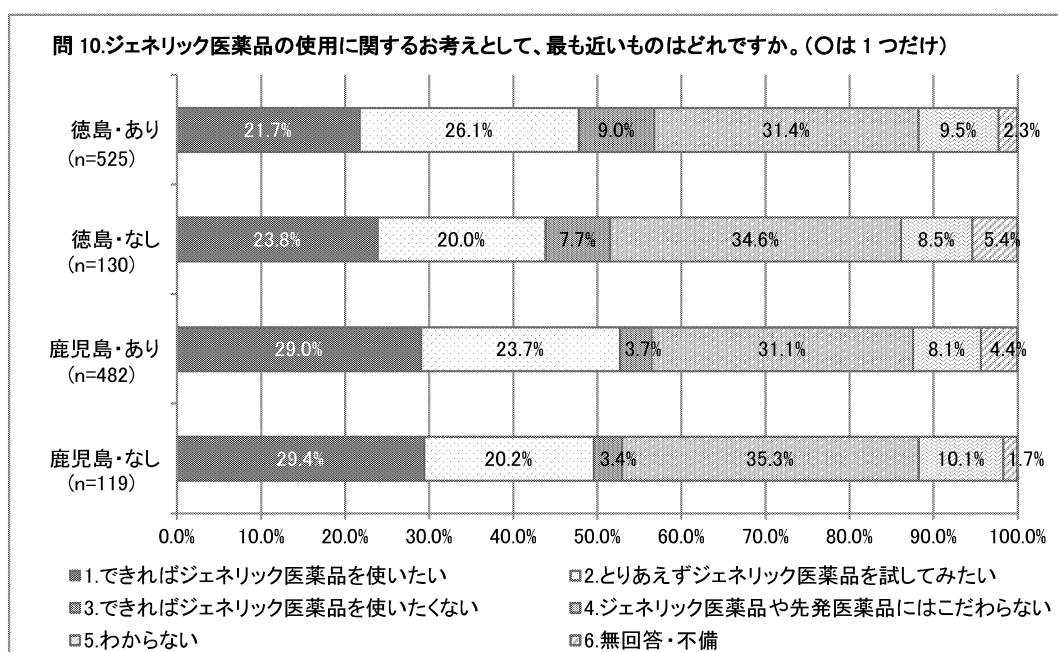


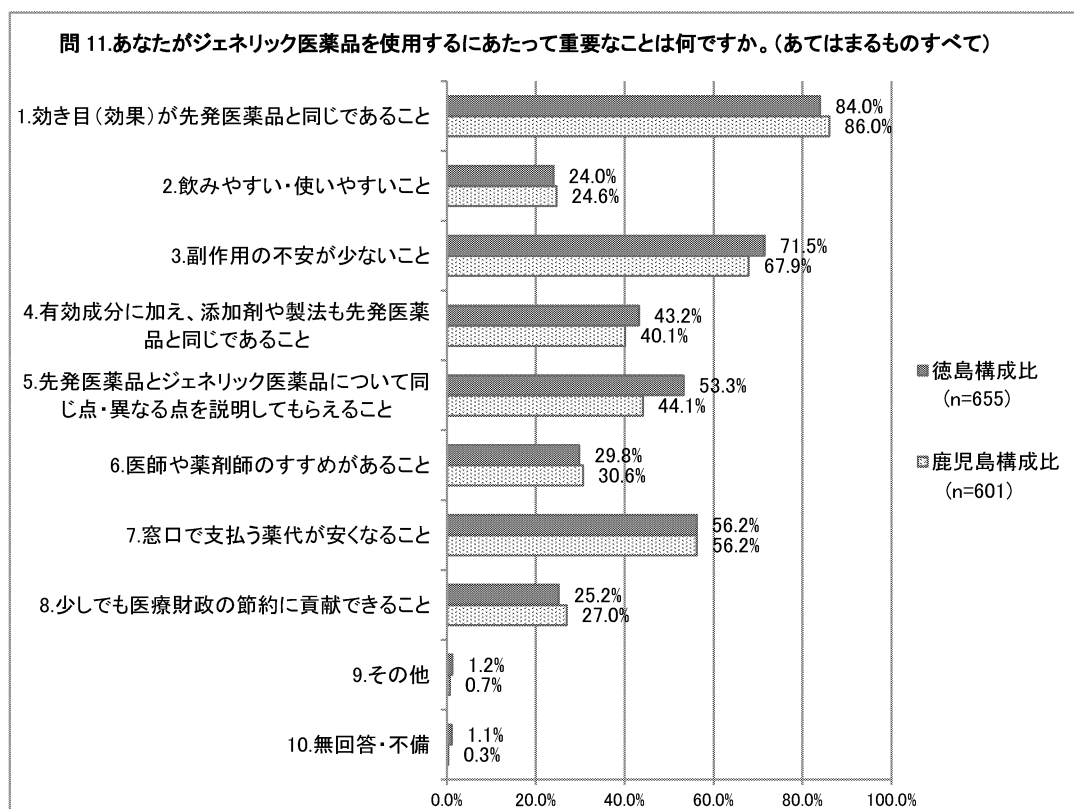
図 10-2



問 11 「あなたがジェネリック医薬品を使用するにあたって重要なことは何ですか。(あてはまるものすべて)」の質問に対し、「効き目(効果)が先発医薬品と同じであること」との回答が、両支部とも最も高く徳島支部 84.0%、鹿児島支部 86.0%、次いで「副作用の不安が少ないこと」が徳島支部 71.5%、鹿児島支部 67.9%、「窓口で支払う薬代が安くなること」が徳島支部 56.2%、鹿児島支部 56.2%であった。最も差が見られた回答は「先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえなこと」であり、徳島支部と鹿児島支部で 9.2 ポイント差となっている。徳島支部は鹿児島支部に比べ、ジェネリック医薬品について詳細な情報を求める傾向があると推察され、ジェネリック医薬品の選択に慎重な姿勢がうかがえる。

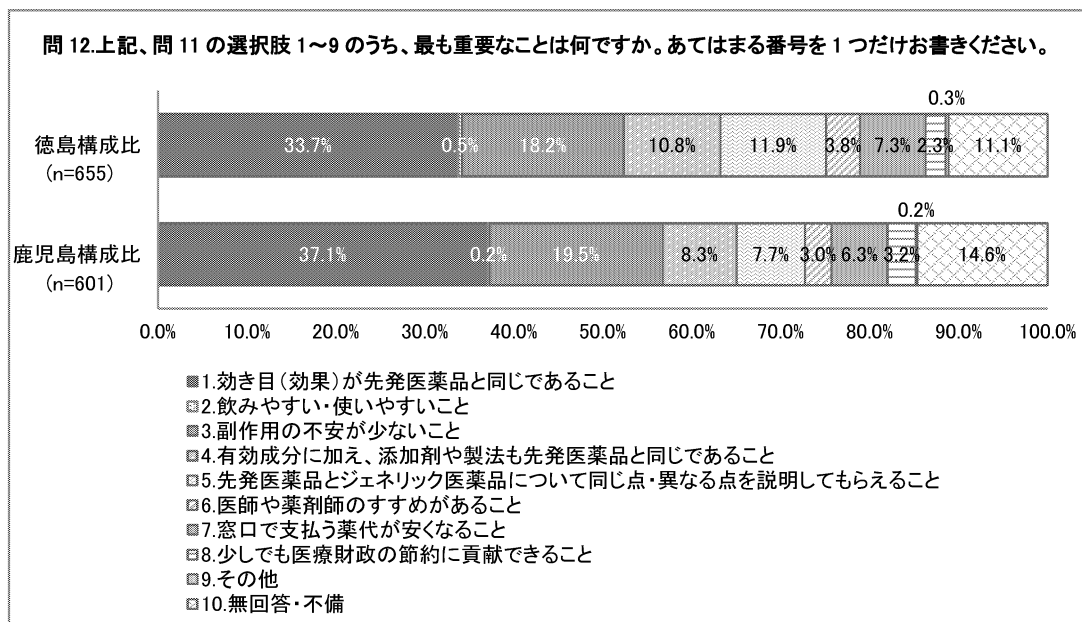
また「医師や薬剤師のすすめがあること」については徳島支部 29.8%、鹿児島支部 30.6%と、「効き目(効果)」「副作用」「薬代」ほど重要度が高くないものの、約3割を占める回答となっていることから、両支部加入者ともに「医師、薬剤師からの効き目(効果)や副作用についての説明」を求めていることが推察される。(図 11)

図 11



問 12「上記、問 11 の選択肢 1～9 のうち、最も重要なことは何ですか。あてはまる番号を 1 つだけお書きください。」の質問に対して、問 11 の複数回答時と同様に、「効き目（効果）が先発医薬品と同じであること」が両支部ともに最も高く、徳島支部 33.7%、鹿児島支部 37.1%、次いで「副作用の不安が少ないこと」が徳島支部 18.2%、鹿児島支部 19.5%となった。（図 12）

図 12



○クロス分析からみる比較検証

問2と問5のクロス集計においては、徳島支部、鹿児島支部のクラメール連関係数がそれぞれV=0.59、0.58と強い関連性が見られた。(表3-1、表3-2)

「ジェネリック医薬品に変更したことがある」者において「病院や診療所、薬局でジェネリック医薬品について説明を受けたことがある」者は徳島支部88.2%、鹿児島支部90.4%となっており、説明機会の有無が変更契機の重要なファクターであると言える。

表3-1

・「問2」と「問5」のクロス集計

徳島

問2と問5のクロス集計		問2:今までに病院や診療所、薬局でジェネリック医薬品について説明を受けたことがありますか。			
		ある	ない	総計	
問5:今までに先発医薬品をジェネリック医薬品へ変更したことはありますか。(〇は1つだけ)	変更したことがある	88.2%	11.8%	100.0%	n=246
	初めからジェネリック医薬品が処方されているため変更していない	72.4%	27.6%	100.0%	n=76
	(2. 以外の理由により)変更したことはない	34.4%	65.6%	100.0%	n=90
	薬をよく飲んでいるがわからない	32.4%	67.6%	100.0%	n=34
	薬をあまり飲んでいないためわからない	23.4%	76.6%	100.0%	n=184
	総計	56.7%	43.3%	100.0%	n=630

クラメール連関係数	結果
0.59	強い関連性がある

表3-2

鹿児島

問2と問5のクロス集計		問2:今までに病院や診療所、薬局でジェネリック医薬品について説明を受けたことがありますか。			
		ある	ない	総計	
問5:今までに先発医薬品をジェネリック医薬品へ変更したことはありますか。(〇は1つだけ)	変更したことがある	90.4%	9.6%	100.0%	n=282
	初めからジェネリック医薬品が処方されているため変更していない	85.1%	14.9%	100.0%	n=101
	(2. 以外の理由により)変更したことはない	40.0%	60.0%	100.0%	n=55
	薬をよく飲んでいるがわからない	31.4%	68.6%	100.0%	n=35
	薬をあまり飲んでいないためわからない	30.3%	69.7%	100.0%	n=119
	総計	69.3%	30.7%	100.0%	n=592

クラメール連関係数	結果
0.58	強い関連性がある

問7と問10のクロス集計においては、徳島支部、鹿児島支部のクラメール連関係数が、 $V=0.35$ 、 0.34 と関連性がある結果となっている。(表4-1、表4-2)

「できればジェネリック医薬品を使いたい」と答えた者の中で、「少しでも安くなるのであれば使用したい」と考える者については、徳島支部86.8%、鹿児島支部92.0%であった。「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」とする者の中で、「少しでも安くなるのであれば使用したい」と答えた者は、徳島支部で59.8%、鹿児島支部で69.6%であった。また「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」とする者で、問7において「わからない」と答えた者は徳島支部24.9%、鹿児島支部17.3%であった。

鹿児島支部は、徳島支部と比べて経済的側面から医薬品を選択する傾向が強く、徳島支部は、鹿児島支部よりもジェネリック医薬品を選択する際の判断材料として自己負担額の軽減以外の要素も含まれる傾向があると推察される。

表4-1

・「問7」と「問10」のクロス集計

徳島

問7と問10のクロス集計		問7:ジェネリック医薬品を使用するにあたり、薬局の窓口で支払う自己負担額がどのくらい安くなれば、今後ジェネリック医薬品を使用したいと思いますか。(〇は1つだけ)						
		少しでも安くなるのであれば使用したい	一定金額安くなるのであれば使用したい	いくら安くなっても使用したくない	わからない	その他	自己負担額は0円である	総計
問10:ジェネリック医薬品の使用に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。(〇は1つだけ)	できればジェネリック医薬品を使いたい	86.8%	4.9%	0.7%	2.8%	4.2%	0.7%	100.0% n=144
	とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい	78.4%	6.2%	1.9%	8.6%	3.7%	1.2%	100.0% n=162
	できればジェネリック医薬品を使いたくない	7.3%	10.9%	40.0%	36.4%	5.5%	0.0%	100.0% n=55
	ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない	59.8%	8.1%	1.0%	24.9%	4.8%	1.4%	100.0% n=209
	わからない	34.0%	2.0%	2.0%	54.0%	8.0%	0.0%	100.0% n=50
	総計	64.2%	6.6%	4.7%	18.9%	4.7%	1.0%	100.0% n=620
クラメール連関係数		結果						
0.35		関連性がある						

表 4-2

鹿児島

問7と問10のクロス集計		問7:ジェネリック医薬品を使用するにあたり、薬局の窓口で支払う自己負担額がどのくらい安くなれば、今後ジェネリック医薬品を使用したいと思いますか。(〇は1つだけ)							
		少しでも安くなるのであれば使用したい	一定額安くなるのであれば使用したい	いくら安くなっても使用したくない	わからない	その他	自己負担額は0円である	総計	
問10:ジェネリック医薬品の使用に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。(〇は1つだけ)	できればジェネリック医薬品を使いたい	92.0%	1.7%	1.7%	0.6%	1.1%	2.9%	100.0%	n=174
	とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい	83.3%	5.8%	0.7%	8.7%	0.7%	0.7%	100.0%	n=138
	できればジェネリック医薬品を使いたくない	0.0%	22.7%	45.5%	13.6%	9.1%	9.1%	100.0%	n=22
	ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない	69.6%	3.1%	1.0%	17.3%	6.8%	2.1%	100.0%	n=191
	わからない	34.8%	2.2%	8.7%	41.3%	8.7%	4.3%	100.0%	n=46
	総計	74.3%	4.0%	3.5%	11.9%	3.9%	2.5%	100.0%	n=571

クラメール連関係数	結果
0.34	関連性がある

問 10 と問 11 のクロス集計では、徳島支部、鹿児島支部のクラメール連関係数は、 $V=0.10$ 、 0.07 と非常に弱い関連性となっている。(表 5-1、表 5-2)

両支部で共通する点として、「できればジェネリック医薬品を使いたい」とする者は、第一に「効き目（効果）が先発医薬品と同じであること」、第二に「窓口で支払う薬代が安くなること」、第三に「副作用の不安が少ないこと」がジェネリック医薬品使用にあたって重要と考えている。

また、「とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい」と考える者は、第一は同じく「効き目（効果）が先発医薬品と同じであること」だが、次いで「副作用の不安が少ないこと」が多い結果となっており、「できればジェネリック医薬品を使いたい」とする者との違いがみられた。

「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」とする者では、「先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること」を比較的重視しており、問 6 においてジェネリック医薬品への変更のきっかけを「薬剤師からの説明」とする者が約 6 割であったことを踏まえると、ジェネリック医薬品使用促進においては、両支部ともに薬剤師からの説明内容が重要と推察される。

表 5-1

・「問10」と「問11」のクロス集計
徳島

問10と問11のクロス集計		問11:あなたがジェネリック医薬品を使用するにあたって重要なことは何ですか。(あてはまるものすべて)									総計	
		効き目(効果)が先発医薬品と同じであること	飲みやすい・使いやすいこと	副作用の不安が少ないこと	有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること	先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること	医師や薬剤師のすすめがあること	窓口で支払う薬代が安くなること	少しでも医療財政の節約に貢献できること	その他		
問10:ジェネリック医薬品の使用に関する考えとして、最も近いものはどれですか。(○は1つだけ)	できればジェネリック医薬品を使いたい	22.1%	6.1%	16.0%	9.1%	11.3%	7.6%	19.1%	8.4%	0.2%	100.0%	n=592
	とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい	21.9%	6.2%	18.3%	11.1%	13.4%	7.1%	15.4%	6.6%	0.0%	100.0%	n=649
	できればジェネリック医薬品を使いたくない	20.2%	3.5%	20.7%	20.2%	18.7%	6.1%	4.5%	4.0%	2.0%	100.0%	n=198
	ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない	22.0%	6.7%	19.2%	10.4%	14.8%	7.6%	12.9%	6.1%	0.4%	100.0%	n=819
	わからない	19.6%	7.1%	19.2%	11.2%	13.4%	11.6%	14.7%	3.1%	0.0%	100.0%	n=224
	総計	21.6%	6.2%	18.3%	11.1%	13.8%	7.7%	14.5%	6.4%	0.3%	100.0%	n=2482

クラメール連関係数	結果
0.10	非常に弱い関連性がある

表 5-2

鹿児島

問10と問11のクロス集計		問11:あなたがジェネリック医薬品を使用するにあたって重要なことは何ですか。(あてはまるものすべて)									総計	
		効き目(効果)が先発医薬品と同じであること	飲みやすい・使いやすいこと	副作用の不安が少ないこと	有効成分に加え、添加剤や製法も先発医薬品と同じであること	先発医薬品とジェネリック医薬品について同じ点・異なる点を説明してもらえること	医師や薬剤師のすすめがあること	窓口で支払う薬代が安くなること	少しでも医療費助の節約に貢献できること	その他		
問10:ジェネリック医薬品の使用に関するお考えとして最も近いものはどれですか。(〇は1つだけ)	できればジェネリック医薬品を使いたい	23.1%	6.3%	15.7%	10.1%	9.8%	7.9%	18.3%	8.8%	0.0%	100.0%	n=683
	とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい	23.8%	5.5%	19.1%	9.4%	10.9%	9.0%	15.0%	7.2%	0.0%	100.0%	n=512
	できればジェネリック医薬品を使いたくない	22.7%	4.0%	17.3%	18.7%	13.3%	8.0%	9.3%	6.7%	0.0%	100.0%	n=75
	ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない	23.2%	7.3%	19.1%	10.4%	13.0%	7.0%	13.0%	6.6%	0.4%	100.0%	n=724
	わからない	18.2%	9.1%	19.3%	13.9%	13.9%	9.6%	12.3%	3.2%	0.5%	100.0%	n=187
	総計	22.9%	6.6%	18.0%	10.6%	11.6%	8.0%	14.9%	7.2%	0.2%	100.0%	n=2181

クラメル連関係数	結果
0.07	非常に弱い関連性がある

【考察】

アンケート調査の結果より、徳島支部においては、ジェネリック医薬品の認知度は高いものの、鹿児島支部と比較するとジェネリック医薬品に関する詳細な情報を受け取る機会が少なく、後発医薬品に対する効能効果や副作用に対する不安感が高い傾向にあることが分かった。これが、徳島支部はジェネリック医薬品への変更経験が鹿児島支部に比して少ないことにつながっている可能性が高いと推察される。

一方で、ジェネリック医薬品の使用に対して、「できればジェネリック医薬品を使いたい」「とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい」「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」とする者が約 8 割と、ジェネリック医薬品への変更可能性においては、鹿児島支部とほぼ同等の結果であった。

特に「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」とする者において、徳島支部では経済的メリット以外の面についても重視する傾向がみられるため、薬代の軽減額のみならず、ジェネリック医薬品の効能効果や副作用、先発医薬品との異なる点・同じ点など、より詳細な情報を提供することがジェネリック医薬品使用促進の戦略上重要であると考えられる。

また、ジェネリック医薬品への変更契機として、「医師からの説明」「薬剤師からの説明」と答えた者が約 8 割を占める状況から、医療提供者側、特に薬剤師からのアプローチが、ジェネリック医薬品使用促進を図る上で重要であることが示唆された。

これらのことから、徳島支部においては①医療提供者側からの説明機会の増加、②ジェネリック医薬品の効能効果や先発医薬品との同等性、副作用などの情報提供の充実が今後のジェネリック医薬品使用促進事業の課題である。

なお、本調査による結果については、各関係団体へ情報提供を行い、強い関心を得ることができた。今後は保険者、行政、医療提供者等との連携を深め、「オール徳島」でジェネリック医薬品使用割合向上に向けての具体的対策を講じてまいりたい。

【備考】

第76回日本公衆衛生学会で示説発表。